

第13回 応用人間科学研究科校友会 総会議事録

開催日 : 2019年6月21日(金)

開催時間 : 19時00分~20時30分

開催場所 : キャンパスプラザ京都 6階 第1講習室

出席者 : 徳田先生、中村先生、森岡先生、荒木先生、修了生7名、衣笠独立研究科事務室1名

総会次第

議案及び議事

① 議長の選任・議事進行者の選任

議長 : 野池雅人 議事進行 : 真鍋拓司

② 2018年度の活動報告・校友会入会状況

資料にもとづき、真鍋氏より説明があった。

③ 2018年度会計報告(収支報告)別紙

資料にもとづき、真鍋氏より説明があり、承認。

④ 2019年度予算

資料にもとづき、真鍋氏より説明があり、承認。

⑤ 2019年度活動予定

資料にもとづき、真鍋氏より提案があり、承認。

⑥ 役員改選について

資料にもとづき、野池氏より、昨年度、今後の応用研校友会をどのように運営するかを議論するために従来からの役員をそのまま留任させることで承認をされている。今年度についても同様の状況から役員は留任することでの提案があり、承認。

⑦ 議決及び審議

徳田先生より現在の応用研、人間研の様子について情報提供。臨床心理士、公認心理師の資格課程を有する研究科として発足して2年目となった。公認心理師で定められている実習時間を院生に履修させるための支援、実際にそれを受講する院生、共にハードな時間を過ごしている状況。学外実習、修士論文作成の両立が課題となっている。博士課程後期課程にも入学定員25名に近い学生が1回生、2回生それぞれ在籍し、着実に研究科として発展している状況報告があった。総合心理学部、人間科学研究科校友会の会則が教授会で決定され、その資料を元に説明があった。学部と研究科は同じものではないが、個々に組織するのではなく一体化して運営。

1. 会員は立命館大学総合心理学部の卒業生
2. 立命館大学大学院人間科学研究科の修了生
3. 立命館大学文学部心理学専攻の卒業生
4. 立命館大学大学院文学研究科心理学専修の修了生
5. 立命館大学大学院応用人間科学研究科校友会の会員
6. 立命館大学総合心理学部および立命館大学大学院人間科学研究科所属の教員
7. その他役員会が適当と認めた者

とし、すでに応用研校友会会員からは改めて会費は徴収せず、新しい校友会に加入できるよう制度を整備。名称については、応用研の名称がないため、応用研の校友からすると帰属意識が薄く

なりがちであるため、会の名称は、立命館高校のようなあらたな名称となる可能性もあり、現在は未定。事業計画は会員の親睦、交流、教育・研究活動、社会貢献を促進する事業に加えて、在学生の経済的支援を行う。会費徴収を行う人数が多く、会費収入がある一定以上の金額となり、毎年の卒業・修了生へ一般的に考えられる事業だけでは十分な活用が出来ないことから、この課題についても設定した。総会は原則3年に1回の開催、総会を開催しない年度の事情計画、決算、その他重要な事項の決定については役員会が担う、事務局はこれまでは会員の修了生が担っていたが、今後は総合心理学部事務室が担当、会長等役員を選出はこれからであり、イメージとしては文学部出身、あるいは、応用研出身の教員がまずは立ち上げのこの時期は中心となるのがよいと考えている、との説明があった。

野池会長からは応用研校友会としては、この会則案をうけて最終的に合流するか否かを決定することになる。事務的な整理は今後必要になるが方向性としては、今年で応用研校友会会員になる人が最後となり、今後の会費収入も見込めないことから、応用研校友会は総合心理学部・人間研校友会へ合流することで発展的解消をすることを見据えて、今後の協議をする。また、応用研20周年として、シンポジウムあるいは記念誌作成をすることも検討。

出席者からの意見は次のとおり。

- 新しい校友会が発足してもアクティブに活動することにはならないと予想されるので、セグメント化された活動、これまでの応用研の活動を引き続き実施する中に人間研の活動も巻き込まれて実施されるようなイメージを持っている。
- 対人援助の活動、キャリア支援等の活動も引き続き実施していけばよいと思う。文学研究科の心理学専攻はほぼ活動をしていない。それらの人たちについてどのように会員としてみなすのかは事務的な整理が必要。
- 初代の役員を選び方について、事前に相談が必要。
- 応用研校友会の発展的解消を目指して校友会が運営されていることを知り、安心した、応用研修了生も立命館とのつながりを持てる組織にしてほしい。
- 今後の校友会活動が発展することが新たな新入生が入学し、人のつながりも広がるので期待している。
- 発展的解消の報告で活動するのは賛成だが、応用研の独自の活動もできるようなしくみにすることはできないだろうか、
- 会計年度の期日は10月始まり、9月終わり、よりも4月始まり、3月終わりのほうがよいのではないか。
- 現職の教員。校友会でスクールカウンセラーや心理職、その他業務にかかわる研修をする際に講師を依頼する上でこのネットワークは非常に有益、今後もつながりを持ちたいと考えている。
- 学部の校友会は、旧友を懐かしむ、交流する等の活動が主体となるが、応用研校友会のこれまでの活動は大学院で学んだ専門家のネットワーク作り等、活動のスタイルが異なっている。学部卒業の校友会活動と公認心理師、臨床心理士等専門家集団に属する人が希望するネットワークや研究グループの形成等、それぞれ違うニーズをうまく実現できるような校友会活動ができるような組織。
- 卒業生、修了生の各学年に世話人を設定して、役員と世話人で運営することを考えるのはどうか。それぞれがキャリアアップするような仕組みを検討。
- 学部卒業1期生、研究科修了1期生の中から世話人を決めて、新校友会を設立する準備委員会のようなものに応用研役員会も加わって協議する必要がある。

以上